

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No. : A-38	部門 1. 研修成果活用部門 平成 29 年度 学校教育の情報化指導者養成研修	学校名・氏名 金沢大学教職大学院 学校マネジメントコース 野々市市立野々市中学校 中島 卓二
活動名 なりきり地域連携担当教員 ～教育 ICT と SDGs を切り口に～		

課題の設定 :

石川県野々市市は、15年前より市ぐるみで小・中学生に携帯電話を「持たせない」市民運動を継続している。しかし昨今のデジタル・モバイルツールの普及や、Society5.0 実現に向けての国家戦略に伴う教育の情報化・ICT 活用に向けて、これまで情報スキル指導が入り込む余地がなく、一貫してモラル指導だけを実施している中学校現場からは、見直しを望む声【資1】も上がっている。自らが「地域連携担当教員」になりきり、これまでの不所持運動を推進してきた組織横断的な連携会議体である、「ののいちっ子を育てる」市民会議の事務局長と協働し、教育 ICT と SDGs の 2 つを軸に、本市だからこそ持続可能な「地域学校協働活動」の素地をつくる。

方針・計画 :

H29 年度の内地留学を機に、教育 ICT 活用の研究会や学会、企業展や研修に積極的に参加。
 (1) 市民会議オブザーバー及びアドバイザー委嘱を受け、企画立案に参画開始。【資2】
 (2) 国による第三者的評価と、市行政の巻き込みを期待して、内閣府「RESAS2017 政策コンテスト」へ施策ビジョン【資3】をアイデアとして応募。
 (3) 「第8回子どものケータイ利用を考える全国会議」の分科会において、上記の施策ビジョン提案を、市行政関係者にプレゼン実施。【資4】
 (4) イマココラボ社より「2030SDGs カードゲーム」ファシリテーターとして認定。【資6】
 H30 年度に学校現場に復帰し、教育 ICT と SDGs を軸として、学校と地域を結ぶ役割を担う。

活動内容 :

- ①石川県小松市・金沢市・加賀市・野々市市で計4回のSDGsワークショップを開催。【資7】
- ②勤務校内における、積極的な ICT 機器の導入や授業での活用実践。
- ③内閣府「RESAS2018 政策コンテスト」へのプロジェクトチーム結成と生徒作品応募。【資8】
- ④SDGs を推進する金沢工業大学との協働による「中1生対象・ネット対策講座」の実施。【資9】

活動の成果 :

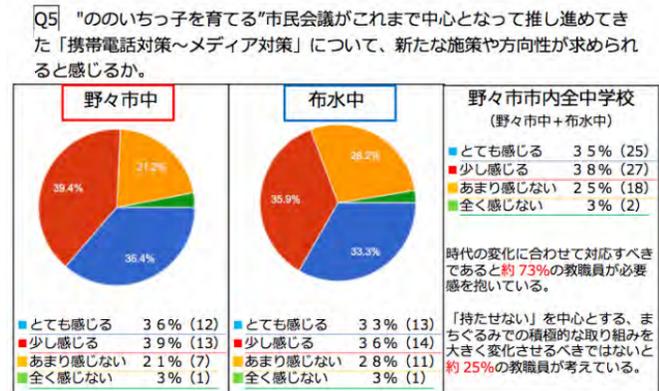
・市長、市教育長、市教委学校教育課長、生涯学習課長、市企画進行部企画課長ら16名が参加した分科会では、参加者全員が提示プランに対し「必要性を感じる」とアンケート回答。【資5】
 ・加賀市・野々市市で実施した SDGs ワークショップにおいて、市民協働の目線からも「地域連携担当教職員」の配置を望む声は多い。【資7下グラフ】
 ・12/8 (土) 市民会議主催の「青少年問題研修会」で、日本デジタル教科書学会会長・富山大学教職大学院 長谷川春夫准教授を招聘し、地域初「プログラミング教育」推進内容の講演が決定。

アピールポイント (アイデアや工夫) :

・「2030SDGs 認定ファシリテーター」として、学校と地域 (行政・大学・企業・NPO 等) を効果的につなぐ、市内で唯一無二の人的資源として機能する役割を果たしている。
 ・「小・中学生に携帯電話を持たせない市民運動」の「聖地」とされる地域において、教育の情報化のロードマップ作りと移行フェーズの落とし込みに成功している。
 ・文科省が設置推進する「地域連携担当教職員」の、県内プロトモデルとして推進できている。

<写真、図表添付欄>

【資1】



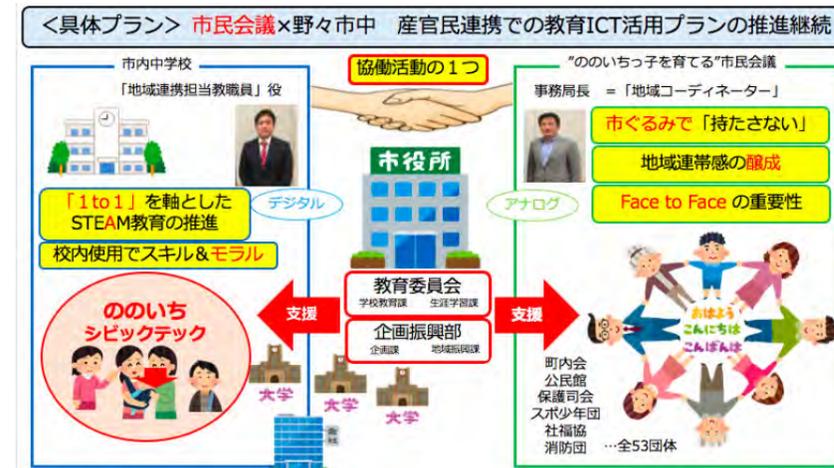
【資2】



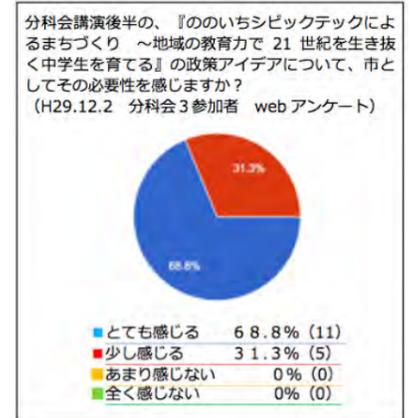
【資4】



【資3】



【資5】



【資6】



【資7】



【資8】



【図9】

